

熊本地震
被害踏まえ

木造建築物の安全性を議論

欠陥住宅全国ネットが金沢大会開く

欠陥住宅被害の救済と
予防を目的として、弁護
士・建築士・研究者・市
民による幅広いネットワ
ークで構成された欠陥住
宅被害全国連絡協議会
(欠陥住宅全国ネット)

の第41回全国大会が、26
、27の2日間にわたり、金
沢市で開催された。
今春落成した金沢弁護
士会館大ホール(金沢市

は、阪神淡路大震災の翌
年の1996年に設立

丸の内)で開かれた式典
には、全国から約100
人が参加。同協議会の吉
岡和弘幹事長が主催者あ
いさつ。来賓として出席
した長井竜也金沢弁護士
会副会長、近江美郎日本
建築家協会北陸支部長が
祝辞を述べた。

欠陥住宅全国ネット
は、阪神淡路大震災の翌
年の1996年に設立

し、前回大会(大阪)で
20年の節目を迎えた。現
在、12の地域ネットが全
国を網羅し、約1050
人の会員を有する。

基調報告した吉岡幹事
長は「今大会では『木造
建築物の構造安全性』をメ
インテーマに、熊本地震
と耐震性の議論と併せ
て、安全性を害する問題
などについても議論を深
めたい」と述べた。

日本建築構造技術者協
会(jisca)元会長で
工学院大学教授・東京工
業大学特定教授の金箱温

春氏が「熊本地震被害と
木造建築物の耐震性」と
題して、構造建築士の立
場から熊本地震をめぐる
諸問題について特別講
演、藤島茂夫構造建築士
(東京)と神崎哲弁護士
(京都)が4号建物につ
いて問題提起し、熊本地
震を契機に、4号木造建
築物の安全性を確保する
仕組みなどを議論した。

翌27日は、建築紛争事
件において建築士の協力
を得る際の留意点や、判
決・和解・事例報告が行
われた。

20年の節目を迎えた。現
在、12の地域ネットが全
国を網羅し、約1050
人の会員を有する。

日本建築構造技術者協
会(jisca)元会長で
工学院大学教授・東京工
業大学特定教授の金箱温



全国から約100人が参加した第41回金沢大会